

平成 27 年度学校法人智香寺学園事業計画

I. 法人の部

学校法人智香寺学園は明治 36 年の東京浅草森下町（現在の台東区）で東京商工学校創設以来、平成 25 年度 110 周年を迎えました。この 110 周年を契機とし、平成 26 年度より様々な記念事業を計画し展開しております。平成 27 年度も引き続き、記念事業計画を踏襲し進めていく予定です。

主な記念事業の内容

1. 埼玉工業大学「ものづくり研究センター」新築

平成 27 年度着工し、28 年度完成を目指し、概算設計に着手しています。

なお、昨年度計画していた図書館のリニューアル工事は、当面先送りする事とした。

2. 正智深谷高校校舎耐震及びリニューアル工事

平成 25 年度より 3 年計画でスタートした校舎の耐震改修リニューアル工事は計画通り 2 年経過した。平成 27 年度は計画最終年度として、残る体育館・3 号館の耐震及びリニューアル工事を実施する。

3. 電気自動車プロジェクトの実施

平成 26 年次世代自動車向けの革新的なものづくり拠点として「電気自動車プロジェクト」を立ち上げた。平成 27 年に向け、文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に再度応募し、研究プロジェクトを全学組織として推進して行く。

4. 学内共同研究プロジェクトの募集

平成 26 年スタートした学内研究プロジェクトを更に推し進め、埼玉工業大学発の創造性に富む革新的な研究を推進し、特に若手研究者への支援を行う。

II. 大学の部

1. 学校教育法改正への対応

平成 27 年度より改正施行される学校教育法について、改正の趣旨を踏まえた各種規定の整備を行い、法に則り学務運営を進めて行く。

2. 学部教育

- ・質の高い大学教育推進プログラムへの取組
- ・学生プロジェクトを始めとした学生支援のより強化
- ・退学者対策の強化

3. 学生募集計画

平成 27 年度生の募集は現在進行中であるが、本学入学定員 500 名の確保は確実な状況である。しかし、中身を見ると工学部が順調に志願者を増やし、定員を大幅に上回る入学が見込んでいる中であって、人間社会学部は定員の確保は可能であるものの、若干低調に推移している。

平成 28 年度については、人間社会学部の活性化を図るため、改組を目玉として推進していく。具体的には、両学科とも専攻制とし、情報社会学科（経営システム専攻・メディア文化専攻）、心理学科（ビジネス心理専攻・臨床心理専攻）とする。また授業料等の見直しもあわせて実施する。

(A) 大学院

工学研究科		人間社会研究科	
専攻名	募集定員	専攻名	募集定員
(博士前期課程)		(修士課程)	
システム工学専攻	6名	情報社会専攻	15名
電子工学専攻	7名	心理学専攻	10名
応用化学専攻	7名		
小計	20名	人間社会研究科合計	25名
(博士後期課程)			
システム工学専攻	2名		
電子工学専攻	2名		
応用化学専攻	2名		
小計	6名		
工学研究科合計	26名		

(B) 学部

工学部		人間社会学部	
学科・専攻名	募集定員	学科名	募集定員
機械工学科		情報社会学科	
(機械工学専攻)	75名	(経営システム専攻)	50名
(ロボティクス専攻)	40名	(メディア文化専攻)	40名
計	115名	計	90名
生命環境化学科		心理学科	
(バイオ・環境科学専攻)	65名	(ビジネス心理専攻)	25名
(応用化学専攻)	45名	(臨床心理専攻)	25名
計	110名	計	50名
情報システム学科	135名	人間社会学部合計	140名
(IT専攻)			
(電子情報専攻)			
計	135名		
工学部合計	360名		

4. 情報公開

平成23年4月1日付、学校教育法施行規則の改正に伴い、来年度も教育情報の公表、財務情報など、情報公開の拡充と、多くの最新情報の公開を引続き実施する。

5. 研究計画

①ものづくり研究センター（次世代自動車プロジェクト）

埼玉工業大学初の電気自動車改造作業を終了し（1号車）、平成27年度に向けて補助金事業に申請。

審査結果：平成27年6月上旬予定

◎テーマ：産学官・地域連携による次世代自動車向けの革新的なものづくり研究拠点

(文部科学省補助事業：私立大学戦略的研究基盤形成支援事業へ申請済み)

研究期間 平成27年度から5年間を予定

研究課題 地域連携による次世代自動車向けの革新的なものづくり研究拠点

研究代表者 埼玉工業大学工学研究科 内山俊一 教授(学長)

チーム1 次世代自動車向けの新素材及び電池・キャパシタに関するイノベーション開発

チーム2 次世代クリーンエネルギー自動車向けの超軽量車両と駆動制御システムに関する革新的開発

チーム3 安心安全快適な運転実現のための次世代自動車の通信制御及び知的電装に関する研究

総費用 研究費・装置・設備：378,000,000円

②私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(文部科学省補助金事業)【最終年度】

研究期間 平成23年4月1日～平成28年3月31日

研究課題 機能的ナノ材料による新規な表面・バイオセンシング技術の創出

研究代表者 生命環境化学科 萩原 時男 教授

③平成26年度科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請(増)を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※平成26年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	学 科	代表者	26年度 直接経費	26年度 間接経費
基盤研究(B)	新規	先端科学研究所	内田 正哉	8,300,000円	2,490,000円
基盤研究(C)	新規	情報社会学科	佐藤 由美	1,400,000円	420,000円
基盤研究(C)	新規	心理学科	友田 貴子	2,500,000円	750,000円
若手研究(B)	新規	情報社会学科	河合理穂子	1,300,000円	390,000円
基盤研究(C)	継続	機械工学科	趙 希禄	600,000円	180,000円
基礎研究(C)	継続	生命環境化学科	有谷 博文	800,000円	240,000円
基盤研究(C)	継続	生命環境化学科	長谷部 靖	1,100,000円	330,000円
基盤研究(C)	継続	生命環境化学科	木下 基	2,422,975円	540,000円
基盤研究(C)	継続	情報システム学科	渡部 大志	400,000円	120,000円
基盤研究(C)	継続	情報システム学科	曹 健庭	1,400,000円	420,000円
基盤研究(C)	継続	情報社会学科	内田 法彦	1,000,000円	300,000円
基盤研究(C)	継続	特任教授	井上 達雄	600,000円	180,000円
戦の萌芽研究	継続	機械工学科	石原 敦	700,000円	210,000円
挑戦の萌芽研究	継続	先端科学研究所	内田 正哉	500,000円	150,000円
若手研究(B)	継続	機械工学科	長谷 亜蘭	1,000,000円	300,000円
若手研究(B)	継続	機械工学科	安藤 大樹	600,000円	180,000円
若手研究(B)	継続	情報システム学科	大島 浩太	900,000円	270,000円
合 計			17件	25,522,975円	7,470,000円

6. 産業技術展示会への研究展示計画

- ①埼玉県北部産業技術交流会出展（10月）
- ②諏訪圏工業メッセ出展（10月）
- ③埼玉県産業教育フェア出展（11月）
- ④坂城町ものづくり展（11月）
- ④埼玉県ビジネスアリーナ出展（1月）

7. 地域交流計画

- ①「市民のための公開講座及び心理セミナー」を開催する。
平成26年度（実績）：23講座（15日間開催）
- ②「子ども大学ふかや」の開催（埼玉県教育委員会との協賛事業）
（子ども大学学長 内山俊一 学長 実行委員長：教育研究協力課 宮川芳伸）
平成26年度（実績）：深谷市内の小学生4年～6年生、77名参加
：本学会場他5日間開催
- ③彩の国大学コンソーシアムで公開講座の開催
（実績）平成26年9月17日（木）川越西文化会館
テーマ：儒教における「わたくし」と「おおやけ」：人間社会学部 岡本光生教授
- ④正智深谷高校を含め近隣高等学校との高大連携を推進する。
（協定校：平成27年3月現在 高校25校・専門学校1校・日本語学校1校）
- ⑤高大連携協定による学校評議員の推薦
 - ・埼玉県立熊谷工業高等学校
 - ・埼玉県立妻沼高等学校 生命環境化学科 熊澤 隆 教授
 - ・埼玉県立深谷商業高等学校
- ⑥深谷市との連携を推進するとともに各種イベントに積極的に協力・参加するなど地域交流を通じ大学をアピールする。
 - ・ふかや市民大学（生涯学習）へ委員及び講師の派遣
 - ・深谷市社会教育委員会委員の派遣
 - ・メンタルヘルス相談業務委託（臨床心理センター）の継続
 - ・市民を対象とした「子育て支援・幼児グループ」を開講（臨床心理センター）
 - ・深谷市「砂ぼこり対策協議会」へ委員の派遣
 - ・深谷市教育委員会と共催で「子ども向け科学講座」の開講
 - ・日本機械学会主催の「ものづくり教室」を児童向けに開催
 - ・彩の国いきがい大学熊谷へ講師の派遣
- ⑦長野県坂城町（坂城町・財団法人さかきテクノセンター・坂城高校）との連携を推進する。
 - ・坂城町合同企業説明会
 - ・さかき町企業（製造業）見学会
 - ・「さかき夏休み子ども体験教室」
 - ・「さかきふれあい大学」市民講座へ講師派遣
 - ・長野県坂城高校文化祭（葛尾祭）へ研究展示
 - ・長野県坂城中学文化祭「ものづくり教室」開催

8. 就職計画

(地域交流)

- ①城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携に関する事業
 - ・坂城町企業見学会（9月に2日間実施予定）
 - ・坂城町企業の業界研究セミナー参加（2月開催予定）
 - ・大学と坂城町企業との意見交換会及び企業見学会（10月開催予定）
- ②長野県との「ふるさと信州学生Uターン就職促進に関する協定における事業」
 - ・長野県内企業との情報交換会（10月開催予定）
 - ・長野県内企業の業界研究セミナー（2月開催予定）
- ③群馬県中小企業家同友会との連携協定における事業
 - ・群馬県中小企業家同友会加盟企業による学内合同企業説明会参加（6月開催予定）
- ④諏訪工業メッセ関連事業
 - ・諏訪工業メッセにおける地元企業との情報交換会（10月予定）
 - ・諏訪工業メッセ見学会

(学生支援講座・ガイダンス)

- ①公務員対策講座（8月～9月、2月～3月開催予定）
- ②SITマイキャリアプラン（5月～9月前期分、10月～2月後期分実施予定）
- ③学年別就職ガイダンス（4月～2月複数回実施予定）
- ④インターンシップガイダンス（5月開催予定）
- ⑤埼玉県大学就職問題協議会主催：16大学合同企業説明会（9月開催予定）
- ⑥面接突破合宿研修（11月・2月開催予定）
- ⑦面接突破研修（12月3月 複数回開催予定）
- ⑧Uターン学生就職ガイダンス（11月開催予定）
- ⑨東京経営者協会加盟企業による出前講義（10月開催予定）
- ⑩企業人事担当者による就職活動直前講座（2月予定）

(学内合同企業説明会等)

- ①4年生向け合同企業説明会（5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・2月開催予定）
- ②3年生向け業界セミナー（12月開催予定）
- ③3年生向け学内合同企業説明会（3月開催予定）
- ④未内定者向け個別会社説明会（9月以降随時開催予定）

(保護者向け就職ガイダンス)

- ①4年生・3年生保護者向け就職ガイダンス（7月2回開催予定）

(学生支援事業)

- ①ハローワークジョブサポーター相談（4月～3月）
- ②キャリアカウンセラーによる相談（4月～7月前期分、9月～3月後期分）
- ③学部系学生対象工場見学会（埼玉県・群馬県各2社見学予定）

(連携事業)

- ①ジョブサポーターキャリアカウンセラーによるセミナー (9月実施予定)

(情報交換会)

- ①各県及び情報サービス産業協会主催の就職情報交換会参加

Ⅲ. 高校の部

1. 生徒募集状況

3月22日の試験を残した段階で、単願合格者が242名と、昨年度より大幅に減ってしまっています。併願の合格者数は昨年度よりは少し多い949名ですが、併願で本校に入学する生徒の比率が一昨年度並みだとしても340名前後、昨年度並みの比率だと310名程度になることが想定されます。

2. 募集・広報の活性化

今年度の学校方針では、最初に募集広報を項目に掲げました。本校が今までセールスポイントにしてきたのは、大学への現役合格率が高いこと、仏教精神に基づいた教育を行っていること、部活が盛んであること、の3点でした。しかし中学生や保護者にとって、それが本当にセールスポイントになっているのかを確認するため、市場調査を実施する計画です。その結果を見ながら、外部に訴える力点の置き方や、発信の仕方を工夫します。

生徒がどれだけ集まるかは、学校のブランド力によるところが大きいのですが、それには一定の時間がかかります。短期的には正智の長所を余すところなくアピールすることと、今後の発展に期待してもらうことです。

3. 進路指導の強化

進路実績は受験生が学校を選ぶ大きな要素になる。本校の強みでもあるきめ細かな進路指導と、学力の向上により、進学実績を更に伸ばしたい。今年度の数値目標を以下の通りとする。

- ①国公立大学への進学者数30名以上。
- ②早慶上理20名以上。
- ③G-MARCHに50名以上。

4. 学力の向上

平成32年度から、高大接続試験が変わります。知識の詰め込みではなく、考える力が試される方向に変わろうとしています。いわゆるアクティブラーニングが必要になります。それに合わせてカリキュラムも変える必要があります。

センター試験に代わる高大接続テストと同時に、年に複数回行われる、学力到達度テストも実施される予定です。推薦入試やAO入試では、現在指標としている学内での評価に代えて、このテスト結果が指標として使われる予定です。今は入学できている大学に、入学できなくなることも考えられます。新しい制度に適應した学力を身につけさせられるかどうかという点で、学校の真価が問われることとなります。教員による委員会を作り、施策を練り、実施するつもりです。

5. 人格の形成

生徒の礼儀正しさは、本校の強みのひとつです。建学の精神に則った教育と、しっかりとした生活指導の賜物だと考えます。生徒たちは在学中、仏教精神を学ぶことで感謝の心や道徳心、思いやりの気持ちや礼儀作法など、人生を生きてゆくための智恵が身に付いています。このことを本校の特徴として、もっとアピールしたいと考えています。そのためには教職員に、生徒に教えている内容を理解してもらい、同じ目線で生徒たちに接して欲しいと考え、教員向けの研修等を企画します。校訓の「選択」「専修」は行動指針として理解しやすいので、日々の生活の中で実践するよう心掛けます。基本的な生活習慣と学力との間に相関関係があることは、アンケートの結果からも明らかになっています。平成 27 年度は教室の整美や身だしなみを徹底します。形だけの礼儀正しさではなく、心が伴った礼儀正しい生徒たちを増やすことで、学校の品格向上に努め、それが学校の評価向上を図ります。

6. 社会人としての資質の醸成

社会で活躍するためには知識だけでは不十分で、人格と社会性が備わっている必要があります。社会性で最も求められるのは、「自ら考え行動できる」ことであり、これからの時代は更にその重要性が高くなります。そのような生徒を育てるためには、日頃から意識づけを行うと共に、自主的に行動する機会を多く与え、評価してあげる必要があります。なるべく多くの生徒を、生徒会活動やクラブ活動、そしてボランティア活動に参加させるようにします。

7. 校舎の耐震化およびリニューアル工事

平成 25 年度から 3 年計画で、校舎の耐震およびリニューアル工事を進めさせていただいています。文部科学省の特別措置により、平成 25 年度から平成 27 年度の間は、工事に対する補助金が特に有利になっています。今年度は 3 年計画の完成年度として、3 号館と体育館のリニューアル工事を予定しています。教室の仕様は、今まで改修してきた 1 号館、2 号館とほぼ同じにして、耐震補強により安全性を確保するだけでなく、老朽化に伴う不具合を修理し、同時に設備を最新のものにして快適に学習できる環境を整備します。

安全の確保と機能の向上を図りつつ、一方で無駄は排して、必要最小限の改修を心がけます。

8. 財政の健全化

学校が安定的に維持発展してゆくためには、魅力ある学校作りで増収を図ると同時に、経費を圧縮し、財政基盤を確立することが、至上命題です。本校の収支を圧迫している要因はいくつかありますが、早急に改善を図れるものとしては通学バスの費用を圧縮、奨学金の額の適正化、そして 1 クラス当たりの人数を増やし、クラス数を適正化することの 3 点です。ただし、通学バスの路線縮小や有償化、そして奨学金の削減は、生徒募集に影響を与えるため、収支改善効果と生徒の集まり具合のバランスをとりながら、慎重に実施してゆく必要があると考えています。できることから着実に実施していきます。

以上